地方独立行政法人　神奈川県立病院機構
神奈川県立こども医療センター

地域医療連携室だより

2023年2月
VOL.50
登録医療機関数
915件
<2023.1現在 実数>

こどもは国の宝、こども医療センターは神奈川県の宝

総長　町田 治郎

NewsweekはWorld's best specialized hospitals 2023という記事を2022年の秋に発表しました。健康のあらゆる側面をカバーするというニューズウィークの取り組みの一環として、世界的な調査会社Statistaと提携して、世界最高の専門病院をランク付けしたそうです。ランキングには、心臓病学と腫瘍学の上位300の病院、小児科の上位200、心臓外科と内分泌学の上位150、消化器病学、整形外科、神経学、脳神経外科、泌尿器科、呼吸器科のそれぞれ上位125の病院が含まれています。Newsweekには、『このランキングがあなた自身や愛する人にぴったりの病院を見つけるのに役立つことを願っています。』と書かれています。小児科の分野ではボストン小児病院が1位で米国、カナダ、英国などの小児病院が上位に入っています。日本では国立成育医療センターが55位で、神奈川県立こども医療センターが57位に選ばれました。すなわち日本で2位の小児病院ということが世界的にも認められたことで、非常に誇らしいことです。世界中の何千人もの専門家がNewsweekのオンライン調査に参加したとのことです。具体的なスコアリング方法は不明ですが、治療成績はもとより病院の快適さが問われてのことと思います。当センターは小児を専門とする内科系および外科系医師、看護師をはじめとして、薬剤、放射線、検査、リハビリテーション、栄養などのメディカルスタッフがそろっていて、しかも各セクションの垣根が低く、協働できるのが一番の強みです。ファシリティドッグが有名ですが、ボランティアのオレンジクラブやリラの家など、こどもを笑顔にする仲間たちは強力な味方です。また養護学校の先生方も大変熱心です。

日本の少子化は進みますが、小児医療の集約化もされていきます。こども医療センターは神奈川県が誇る高度なプロフェッショナルの集合体であり、ダウンサイジングすることなく存続すべき組織です。どんな些細な症状でも、どうしょうかと迷ったら紹介して頂ければ幸いです。方針が決まった後は逆紹介にも積極的に取り組んでいます。今後もよろしくお願いいたします。

患者さんのご紹介について

原則として15歳中学生までのお子さんが対象になります。

神奈川県立こども医療センターは、紹介・予約制で診療をしています。患者さんをご紹介いただく場合は診療情報提供書（紹介状）をご用意ください。原則として 15 歳中学生までのお子さんが対象です。

ご紹介・ご予約方法について

地域医療連携室宛てに、診療情報提供書（紹介状）を郵送してください。
（画像 CD がある場合は同封してください）

▼

診療情報提供書（紹介状）が到着後、内容を医師が確認し、受診日を設定させていただきます。

▼

受診日が決まりましたら受診連絡票（受診日のお知らせ）を患者さんご家族と紹介元医療機関へ郵送します。

診療情報提供書の書式は自由ですが、専用ハガキもあるのでご利用ください。
専用ハガキが必要な場合には、お申し付けいただければ、お送りいたします。

詳しくは、リニューアルしたホームページをご覧ください。

かながわこども医療ネット

（株）富士通 HumanBridge を利用して、こども医療センター電子カルテ情報をインターネット経由で公開する情報共有システム「かながわこども医療ネット」をご利用いただけます。診療に関わる情報をネットワーク上でリアルタイムに共有して、効率的かつ緊密な小児医療提供体制の実現を目指します。

詳しくは、リニューアルしたホームページをご覧ください。

【当センターフォロー中の患者さんの急患受診】

まずは、かかりつけの医療機関、休日急患診療所や夜間急病センター等で受診していただき、必要に応じて**医師から当センター担当医宛に電話でご連絡ください。**医師からの連絡が難しい場合は、患者さんから直接担当医に電話連絡をして下さい。
※ 事前にご連絡をいただけない場合、受診出来ないことがありますので、ご注意ください。
※ 救急外来の診療は担当医ではなく、救急外来担当医が行う場合もあります。

【編集・発行】　地方独立行政法人 神奈川県立病院機構　神奈川県立こども医療センター　地域医療連携室
〒232-8555　神奈川県横浜市南区六ツ川 2-138-4　TEL：045-711-2351（代）　FAX：045-710-1933
ホームページ：https://regional-medical-liaison.kcmc.jp/

感染制御室の皆さんからのお話

新型コロナウイルスとこども医療センター

検査科部長　兼　感染制御室長　**鹿間 芳明**

新型コロナウイルスの世界的流行（パンデミック）が始まったのは2020年の初頭ですので、もう3年が経過しました。学校でも社会でも様々な形で自粛を余儀なくされ、皆様も不安と圧迫感のなかで過ごされてきたことと思います。

こども医療センターでもこの未知の感染症にどのように対応すればよいか、当初スタッフはみな不安を抱えながら外来・病棟で準備をしました。初めて新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の患者さんが入院されたのは2020年11月、その後も重症COVID-19の患者さんや、もともと様々な病気でかかりつけの患者さんでCOVID-19にかかられた方が、数多く入院されてきました。COVID-19の患者さんはあらかじめ準備された隔離室に入院していただき、スタッフはN95マスクやゴーグル、ガウンなどの防護具を着けなければいけないので、病室もスタッフの数もかなり割かれることになります。しかしその一方で、こども医療センターでなければ診療できないCOVID-19以外の病気もたくさんあります。そのような患者さんを、COVID-19の患者さんと並行して受け入れなければならないというのが、コロナ禍の中こども医療センターに与えられた使命でした。

スタッフたちは自分も感染してしまうかもしれないという恐怖と闘いながら日々診療・ケアを行っています。もし感染したら軽症でも10日間（今は少し短縮されましたが）は自宅待機が必要です。さらに、家族が感染した場合も濃厚接触者として自宅待機が必要になるため、スタッフの数は慢性的に不足した状態になります。それでもなんとかシフトをやりくりして病院の機能を維持していかなければなりません。これだけ長い闘いが待っていようとは、3年前には想像もつかなかったのですが、病院のすべてのスタッフが、本当に一丸となってウイルスと闘い、病院を守ってきた3年間でした。

感染制御室では、マニュアルを作成して様々なルール整備を行い、検査体制を整え、手指消毒や防護具着用がきちんとできているか日々チェックを行い、こんなときはどうするという病院内外からの問い合わせに対応する、という仕事をしております。パンデミックはまだまだ続きそうです。地域医療機関の皆様におかれましては、引き続きご協力を宜しくお願い致します。

「感染症や薬剤耐性菌を持ち込まない、うつさない、広げない」感染対策活動

感染制御室専従看護師　感染管理認定看護師　**横谷 チエミ**

当センターには、感染対策院内感染対策委員会の下部組織に位置し、多職種から構成され組織横断的に活動する感染制御チーム「ICT」と抗菌薬適正使用支援チーム「AST」があり、患者さん、職員や面会者が感染症や薬剤耐性菌を持ち込まない、うつさない、広げないように院内の感染対策の実働を担っています。

ICTは医師・看護師・薬剤師・臨床検査技師・歯科医師・歯科衛生士、事務の多職種で構成されています。職種それぞれの専門性を発揮し協働で感染対策に取り組んでいます。全セクションを対象に標準予防策の実施状況、療養環境の管理などについて週1回以上ラウンドや流行性感染症や薬剤耐性菌、手術創や血流感染症の発生状況をおよび職員の感染対策実施状況として手指衛生のモニタリングおよび、全職員の感染対策研修ICTセミナーを年2回企画し職員教育を行っています。

ASTは、抗菌薬の不適切な使用や長期間の投与が、薬剤耐性菌を発生あるいは蔓延させる原因となりうるため、その対策として患者さんへの抗菌薬の使用を適切に管理・支援するための実働部隊です。カルバペネムなどの特定抗菌薬を使用、抗菌薬の長期使用、血液培養陽性、耐性菌が検出された患者等をモニタリングし、抗菌薬を適正に使用できるよう主治医やスタッフに情報提供や支援をおこなっています。

興感染症等発生時対応合同訓練
PPE 着脱訓練の様子

また、今年度は感染対策向上加算1の病院として地域の病院・診療所、保健所、医師会と連携して合同カンファレンスや新興感染症等発生時を想定した合同訓練など実施しました。

N95 マスクフィットテスト

これからも多職種で連携を取りながら持ち込まない、うつさない、広げない感染対策活動を続けていきたいと思います。

感染管理認定看護師の役割

感染制御室専従看護師　感染管理認定看護師　**大原 祥**

感染管理認定看護師の役割は、疫学、微生物学、感染症学、洗浄・消毒・滅菌、関係法規などの専門的知識を基に施設の状況に合った効果的な感染管理プログラムを構築します。そして病院に勤務する全職員が感染管理に関する知識を身につけ、病院として患者さん・ご家族をサポートできる体制を整えることです。一言で言うと「病院に関わるすべての人を感染から守ること」です。

2023年2月現在、当センターの感染制御室には2人の専従看護師がおり、感染管理認定看護師の資格を有しています。院内からの感染症や感染に関する問合せ等にも迅速に対応しています。